

## 特別寄稿

# 首都圏3県の「平成維新」活動 これまでとこれから

### “平成維新の会神奈川の活動の沿革と今後の方針”

平成維新神奈川代表 岩田 実

それは、ある惑星に向かって軌道上を飛び続ける探査ロケットの様でもあり、あるいは生育環境に適した所に植樹した苗木のようでもある。

平成維新神奈川は昨年9月23日に設立総会を開催し、早くも半年を経過している。

このたび「生活者通信」の編集の方から上記のテーマで原稿の依頼があり、昨年の私達の総会を中心に、その前後を整理してみた。簡単なポイントメモを早朝に残し、私達は行動に豊かなこの一日を送りたい。

最初に何があったかを定義する事は、今、何を維持しているかに関わる問題であるという点で重要な事である。平成維新の運動の中で一点を捉えて、それを中心とする事は出来ない。

パラダイム変換といった、時代の大きな動き、かつては富国強兵と言い、最近では経済大国と言われた日本の現状。歴史、経済、政治等の社会学者の20世紀を問う多くの論評、大前研一氏の社会変革の著作の数々、自立する市民意識、地方の時代、そして21世紀への具体的なビジョンへの期待感等々。それらがある特有の構図となって、93年末平成維新の会の設立を見ることになった。100万人の会員規模を想定し、2005年迄までに国を11の道州に分割し、国の権限を委譲する。それらを議員立法として現行法体系を改革してゆくとしたもので、平成維新の誓いや、その憲章が採択された。会員の中から地域連絡拠点としてリージョンステーション、キーステーションが整備され、支援センターを通じて、それぞれミーティングが定例化し始めた。

94年衆議院選挙は各地に波紋を残しながら、100名近い推薦議員が当選した。時期を同じくして、83にのぼる法案の提言がなされた。それらは議員立法

素案として推薦議員に託し、平成維新の実現の一步二歩が始まったと思われた。

神奈川では各地のキーステーションが集まり、組織整備がなされ始めた。鎌倉市長選、横浜市長選等に積極的に活動として取り組んだ。市民フォーラム等のイベントも企画し、実施した。

「維新伝信」が発刊され、全国組織として、各道州、各エリアと言った区分け、会則、準則等が整備された。エリアマネージャーが任命され、又エリア活動費等が配分される事になった。

神奈川エリアは、従来民主的に編成された組織、総合運営会議を中心に再編成を行い、地域活動と委員会活動を中心に市民運動を展開した。83法案の一部の市県議会への陳情、請願活動、広報誌「神奈川維新プレス」の発行、会員拡大活動、政策研究等を行った。都知事選の応援、統一地方選の推薦活動、応援を経て昨年6月末、平成維新の会は大きく組織の変更をせざるを得なくなった。これは会の経営破綻が主原因であった。支援センターは全廃され、平成維新の会は休眠することとなり、各地の活動はそれぞれ任意団体となった。これは各エリアの評議員とマネージャーから成る全国協議会の決定によるものであった。神奈川エリアは、同じ時期、参議院選にも推薦候補を立て善戦した。

7、8、9月の暫定期間において、1995年9月23日、「平成維新神奈川」とし、新しい規約と方針、組織を作り、平成維新の誓いと憲章を基本理念とした任意団体として結成された。その時採択された基本方針

1) 私達は市民運動を通じ、生活者主権の住みよい国を創ると言う大きな目的に向かってボトムアップ型の組織を確立し、政策提言を行う。

2) 地域社会に根付く市民運動であるために、活動に終始一貫した以下の信条を掲げる。平和、公正、自主。

3) 会員による合議制の中枢機関を遵守し、それぞれの委員会、地域組織が有機的に循環のある活動を行う。それらを基礎として、道州組織、全国組織の構築に積極的に参加する。

平成維新を実現するためには完璧であるとは言えないが、見直しをした規約の元に、組織が整備されつつある。今まで継続的に位置づけていた、組織、政策、企画、広報、選対と言った常任委員会に対し、人権、国際、行政監査、直接民主主義、核、環境、福祉、ネットワーク、EM、政策綱領、住専特別、と言った委員会が創設され、それぞれの活動と広報誌「維新プレス」で論評を行なっている。

また、「平成維新を実現する会」の全国組織が整備されつつあり、当会も参加表明している。首都圏一都三県のそれぞれの平成維新の任意団体は、連絡会を定期的に開催することにしている、4月の会議では議員クラブの編成の話も出てきた。神奈川県を中心としては、「ツルの会」(ツルネン・マルテイ氏の活動を支援する会)、「てーぶる神奈川」(丹治幹雄氏をテーブルマスターとする会)、リンカーンクラブ等との連携活動が今後期待出来そうだ。又、横浜、川崎では、地域組織が再編成されつつある。

以上挙げた新組織は、規約を担保とし、真摯で民主的な活動を行っている。外部遮断している会ではないので、まじめな市民運動の会との友好的な関係を形成しはじめています。

最初に何があったのかを今考える時、いろんな状況の変化に対応しながら、生活者としての自負と責任が、根底に存在する事を、この会のよりどころとして認識することが出来る。

政、官、業の腐敗と欺瞞の構図を破壊すべく、政府主導型の時代、権威に対する無批判な迎合の時代が終焉を迎え、産業構造、企業、公共団体が変貌していく今日、何がそれらを大きく動かし始めたのかというと、私は、日本人の生き方そのものが、依存型から自立型に大きく重心が移動してきたからだと思う。それらのよりどころとしてあるのは、自由意志と自己責任であり、自ら意志決定する中に批判力や判断力が、私達の重要な生活能力となって来ているからである。

それらが会員の一人一人の社会観の元であれば、如何なる難局も自分達で考え、自分達で決めていこうじゃないか、